

第1学年 保健体育科学習指導案

日時：令和 年 月 日（ ） 校時

場所：〇〇市立〇〇中学校 体育館

対象：1年〇組 〇名

指導者：（職名）〇〇 〇〇

「指導案」だから「指導者」

1 単元名 球技：ゴール型（サッカー）

2 単元の目標

（1） 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することが**できるようにする**。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることが**できるようにする**。 **（知識及び技能）**

（2） 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが**できるようにする**。

**（思考力、判断力、表現力等）**

（3） 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることが**できるようにする**。 **（学びに向かう力、人間性等）**

「評価の観点」と混同しない。学習指導要領解説の口囲みを参考に示す。語尾は、指導者の立場で書き、「**~できるようにする。**」と記載する。

※学習指導要領解説から、（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）の指導内容別に示す。→「評価の観点（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）」と混同しないこと

3 指導にあたって

（1） 単元観

①指導者から見た特性

- ・運動の形式や技術の仕組み、系統性など
- ・生徒の心身の発達に与える効果など

②生徒から見た特性

- ・その運動を学ぶ意義やその運動をどのように楽しめるかなど

（2） 生徒観（生徒の実態）

- ①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学び方の状況、技能の習得状況
- ②体力実態、質問紙調査結果、男女数
- ③本単元における生徒のよさと課題の整理

※体力実態、質問紙調査結果（客観的な数値も交えて）、男女数については、内容を精査し記載する。

（3） 指導観

- ①「単元観」「生徒観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど
- ②（校内研の究テーマとの関連）

4 内容のまとめりごとの評価規準及び単元の評価規準 第1学年及び第2学年 例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
まとめりごとの 評価規準 内容の	<p>※「指導と評価の一体化」 (国立教育政策研究所) から引用すること</p>			
単元の評価規準	<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

◎単元の評価規準については、該当学年の評価規準を選択し、記載する。

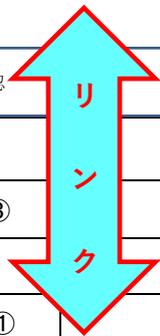
- ・ **知識**については、文末を「～について、言ったり書いたりしている。」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている。」として、評価規準を作成する。
- ・ **技能**については、文末を「～（行い方・対処）について、（～が）できる。」として、評価規準を作成する。
- ・ **思考・判断・表現**については、文末を「～している。」として、評価規準を作成する。
- ・ **主体的に学習に取り組む態度**については、意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、文末を「～しようとしている。」として、評価規準を設定する。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～に留意している。」「～を確保している。」として、評価規準を設定する。

5 指導と評価の計画（1年生） 7時間目 例

「評価の観点」と混同しない。**学習指導要領解説の口囲みを参考に示す。**語尾は、指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗の名称や行い方、（その運動に関する用語）（など）を理解することにも、基本的な技能や仲間と連携した動きを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	（球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

学習の流れ		1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	
	10	オリエンテーション	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動									
	20		ボール操作の反復練習									
	30	ボール慣れゲーム	ボール操作 シュート パス トラップ	空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ボール操作 空間に走り込む					最終リーグ戦Ⅱ		
	40		シュートゲーム （記録の活用）	グリッド突破ゲーム （仲間の助言）	簡易ゲーム① 人数・コートルール等の簡易化						単元のまとめ	
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認											



評価の機会	知識	①	(②)	(②)		②						総合的な評価
	技能			①		②	③					
	思・判・表				②					③		
	態度		②				①					

単元の評価規準	知識	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。
	技能	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。
	思・判・表	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を見付けている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。
	態度	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

**学習指導要領解説の「例示」を参考に示す。**文末は、それぞれの観点別の評価規準に適したことばを記載する。

(2) 指導と評価の計画 (1年生) 例

時間	主な学習活動	知	技	思	態	評価方法等
1		①				カード
2		(2)			②	観察・カード
3		(2)	①			観察・ICT
4	空間に走り込むなどの動き			②		観察
5		②	②			カード・観察
6			③		①	観察・ICT
⑦	課題の確認と解決の練習 ・ボール操作			①		観察・ICT
8						
9				③		カード・観察
10						観察・カード

- ※評価は原則1時間に1~2つとし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないように工夫する。
- ※「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、指導後一定時間経過後の評価をする方がより確実。
- ※「知識」及び「思考・判断・表現」の評価は、指導した日に評価することも可能。
- ※評価のための見取りが、十分でなかったものを8時間目で見直す。【例】5時間目の技能を8時間目に再度評価

6 具体的な指導内容と「単元の評価規準」(1年生) 例

知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを打ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p>	<p>ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p>↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p>↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p>	<p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めたり気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p> <p>↓</p> <p>① 練習の補助をたり仲間へ助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p>
<p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>(上) 指導すること、(下) 評価すること、という原則。</p> <p>※4にある「単元の評価規準」を用いる。</p>	<p>※学習指導要領解説を参照のこと</p>	

7 本時の展開（7時間目／10時間中）

※教師の立場で記入する。

(1) 本時の目標（指導の重点）

- ・提示された動きのポイント（成功例）やつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。  
**（思考力、判断力、表現力等）**

(2) 本時の評価（評価の重点）

- ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。  
**（思考・判断・表現）**

※評価規準の判定基準「B」を明記すること。

(3) 本時の展開

時間	生徒の学習活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ ○分	1 前時を振り返る。 2 用具の準備、準備運動 3 本時のねらいと評価項目の提示 めあて：○○○○○○○○○○○○○ しよう（※生徒の立場で書く）	※学習内容（本時の目標に基づいて生徒に分かりやすい言葉で、何を学ぶか示す）
なか ○分	4 活動Ⅰ ・提示されたシュート、パス、キープのポイントの成功例、つまずき例などの事例を仲間の動きと比較 チームごと ◇ボール操作 ◇空間に走り込む (A 鳥かご・B センタリング・C 2対1・D シュート練習) ◆動きを撮影し課題や良いところを伝える。 5 活動Ⅱ ・簡易ゲーム① 人数・コートルール等の簡易化 ◆動きを撮影し課題や良いところを伝える。	評価方法（例） 【学習カードの記載内容】 【観察】 【ICT】 <b>努力を要する生徒への手立て</b> ・例（動画）を示し、動きのポイントを確認させる。その上で、伝えることに気付かせる。 例) 「自分のチームメイトが、前よりも上手ようになったと思うのはどこかな？」 「以前の自分と比較してよくなったところを見付けよう」
まとめ ○分	6 整理運動、用具の片付け 7 本時の振り返り	※「C」となる生徒の姿を想定し、具体的な手立てを記入する

○はじめ→（導入） なか→（展開）でも良い。

※本時のねらい、生徒のめあて、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること

※ボリュームイメージ案（全5ページ）

- (1ページ) 1～3
- (2ページ) 4、5 (1)
- (3ページ) 5 (2)
- (4ページ) 6
- (5ページ) 7

- 1 指導する内容 = 【学習指導要領解説（例示）】を参照
- 2 指導する内容 = 評価の内容
- 3 例示にある内容をどんな方法で教えるのか = 指導資料集（文部科学省）等の指導書を参照。



## 1 指導する内容 = 【学習指導要領解説(例示)】を参照

(2) 思考力, 判断力, 表現力等 (例示) P127

〈例示〉

- ・ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。
- ・ 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。
- ・ 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。
- ・ 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えること。
- ・ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けること。
- ・ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けること。
- ・ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えること。



## 2 指導する内容 = 評価の内容

7 本時の展開 (7時間目 / 10時間中)

(1) 本時の目標 (指導の重点)

- ・ 提示された動きのポイント (成功例) やつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の評価 (評価の重点)

- ・ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。

表記の  
違いを  
確認

(思考・判断・表現)

## 3 例示にある内容をどんな方法で教えるのか

「・・・、仲間の課題や出来映えを伝えること。」ができる、学習の流れや活動をどう仕組むかがポイントとなります。各学校の実態や単元計画、系統性を考えた年間指導計画を踏まえながら学習内容を考えていきます。